

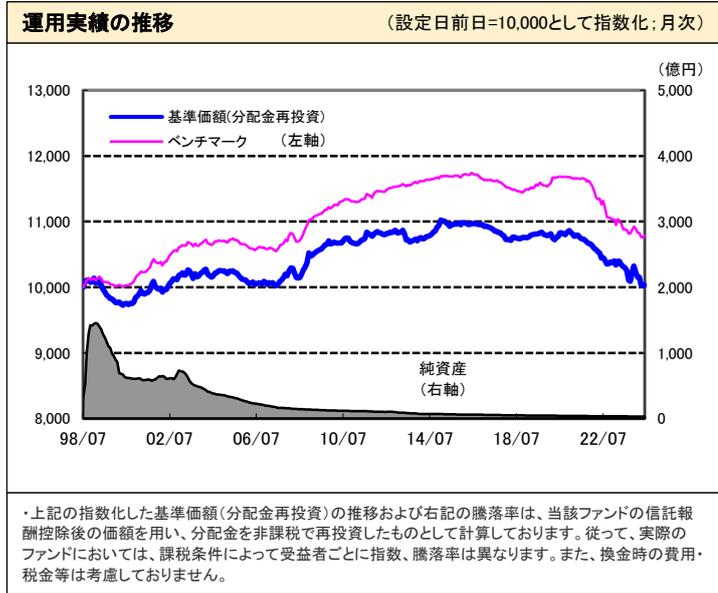


受益者用資料

追加型投信／内外／債券

運用実績

2024年6月28日 現在



基準価額※	7,376 円	
※分配金控除後		
純資産総額	31.8億円	
騰落率		
期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月	-0.0%	0.2%
3カ月	-1.2%	-0.4%
6カ月	-2.8%	-1.3%
1年	-2.7%	-0.9%
3年	-6.7%	-7.4%

- 信託設定日 1998年7月30日
- 信託期間 2026年3月23日まで
- 決算日 原則3.6.9.12月の各21日 (同日が休業日の場合は翌営業日)

分配金(1万円当たり、課税前)の推移	
2024年6月	10 円
2024年3月	10 円
2023年12月	10 円
2023年9月	10 円
2023年6月	10 円

騰落率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

設定来	0.3%	7.8%	設定来累計	2,759 円
------------	------	------	--------------	---------

設定来=1998年7月30日以降

・ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(1-3年)を替100%ヘッジし、設定日前日を10,000として当社で指数化しました。

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
※ファンドの分配金は投資信託説明書(交付目録見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

資産内容

2024年6月28日 現在

通貨別債券配分		
資産	純資産比	デュレーション
アメリカ・ドル建債券	60.5%	2.0年
ユーロ建債券	22.0%	4.3年
メキシコ・ペソ建債券	3.7%	5.1年
中国・人民元建債券	3.5%	7.9年
オーストラリア・ドル建債券	2.1%	5.4年
その他の通貨建債券	4.6%	2.8年
その他	3.6%	-
合計(※)	100.0%	-

※先物の建玉がある場合は、合計欄を表示していません。
・平均デュレーションは加重平均です。
・経過利息は含まれていません。

通貨別配分	
通貨	実質通貨比率
日本円	99.6%
外貨計	0.4%
アメリカドル	-18.2%
ユーロ	16.4%
イギリスポンド	-0.0%
その他外貨	2.2%

・実質通貨比率は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。
・経過利息、現金は含まれています。

格付別配分	
格付	純資産比
AAA	7.8%
AA	68.0%
A	3.5%
BBB	17.0%
-	-
その他	3.6%
合計	100.0%

・格付はS&P社あるいはムーディーズ社のいずれかの格付機関の低い方の格付によります。

ポートフォリオ特性値	
平均格付	AA
平均クーポン	3.4%
平均直利	3.5%
平均最終利回り	4.2%
平均デュレーション	2.9年

・上記のポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等(現金等を含む)の各特性値(クーポンレート、直利、最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したものを、現地通貨建。また、格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。
・デュレーション:金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。
・平均格付とは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。

組入上位10銘柄

2024年6月28日 現在

銘柄名	通貨名	純資産比
米国国債	アメリカ・ドル	18.0%
米国国債	アメリカ・ドル	14.7%
スペイン国債	ユーロ	11.7%
米国国債	アメリカ・ドル	10.9%
米国国債	アメリカ・ドル	7.8%
米国国債	アメリカ・ドル	6.0%
欧州金融安定基金	ユーロ	5.4%
メキシコ国債	メキシコ・ペソ	3.7%
中国国債	中国・人民元	3.5%
米国国債	アメリカ・ドル	3.0%
合計		84.8%

組入銘柄数 債券: 19銘柄

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。

◆三井住友銀行は、新規の募集・販売は行ないません。

野村アセットマネジメント作成 1/2



先月の投資環境

債券市場＜債券利回りは米国・ドイツで低下、日本ではほぼ変わらず＞

- ◆米国：5月のCPI(消費者物価指数)の前年同月比が市場予想を下回り、FRB(米連邦準備制度理事会)の利下げへの転換が意識されたことなどから、債券利回りは低下(価格は上昇)しました。
- ◆欧州：ECB(欧州中央銀行)が定例理事会で利下げを決定したことなどから、ドイツの債券利回りは低下しました。
- ◆日本：海外の債券利回りの低下が日本の債券利回りの下押し要因となった一方で、植田日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見にて国債買い入れ減額が相応の規模になると発表したことで緩和的な金融政策からの転換が意識されたことが債券利回りの上昇(価格は下落)要因となり、債券利回りは、月間ではほぼ変わらずとなりました。

為替市場＜円に対して米ドル・ユーロは上昇＞

5月の米国の非農業部門雇用者数の前月からの増加数が市場予想を上回るなど、一部の経済指標から米国景気の底堅さが意識されたことなどから、米ドルは円に対して上昇(円安)しました。また、ユーロ圏の経常収支黒字幅の拡大基調が継続したことなどから、ユーロは円に対して上昇しました。

先月の運用経過

(運用実績、分配金は、課税前の数値で表示しております。)

○パフォーマンス＜月間の基準価額(分配金再投資)の騰落率は、0.01%の下落となり、ベンチマークを0.21ポイント下回りました。＞

米ドルをアンダーウェイト(ベンチマークに比べ低めの投資比率)、欧州通貨をオーバーウェイト(ベンチマークに比べ高めの投資比率)としていたことなどが、ベンチマーク比でマイナスに影響しました。

○運用経過

- ◆ファンドデュレーション：前月末の水準から大幅な変更はありませんでした。月末時点で、ベンチマーク比で、ファンド全体で長め(地域別では米国と欧州を長め)としました。
 - ◆カントリー・アロケーション(国別資産配分)：前月末の水準から大幅な変更はありませんでした。月末時点で、ベンチマーク比で、ドル圏を高め、日本と欧州圏を低めの投資比率としました。
 - ◆為替：ヘッジ比率の調整により、月末時点で、米ドルをアンダーウェイト、欧州通貨をオーバーウェイトとしました。
- (※)デュレーションとは、債券の利回り変化に対する価格変化の感応度を表し、数値が大きいほど利回り変化に対する価格変化が大きくなります。ファンドデュレーションとは、債券デュレーション×債券組入比率で表されます。

今後の運用方針 (2024年6月28日 現在)

(以下の内容は当資料作成日時点のものであり、予告なく変更する場合があります。)

主要投資対象国の今後の投資環境見通しは、次の通りです。

○債券

- ◆米国・・・景気減速懸念の強まりやFRBの金融緩和への転換に対する市場の期待などから、債券利回りは低下しやすいと予想します。
- ◆欧州・・・ECBの追加利下げに対する市場観測が高まることで、債券利回りは低下しやすいと予想します。
- ◆日本・・・日銀の緩和的な金融政策からの転換に対する警戒感を背景に、債券利回りは上昇しやすいと予想します。

○為替

- ◆米ドル・円・・・日銀の追加利上げに対する市場観測の高まりなどから、円は米ドルに対して上昇(円高)しやすいと予想します。
- ◆米ドル・ユーロ・・・FRBの金融引き締め終了や米国における大規模な経常収支赤字などに伴う米ドル安圧力を想定し、ユーロは米ドルに対して上昇しやすいと予想します。

今後の方針は次の通りですが、投資環境の変化に対し、柔軟に対応していきます。

ファンドデュレーション・・・長めとし、地域別では米国と欧州を長めとします。

カントリー・アロケーション・・・ドル圏を高め、日本と欧州圏を低めとします。

為替・・・ヘッジ比率の調整により、米ドルをアンダーウェイト、欧州通貨をオーバーウェイトとします。

ファンドは、値動きのある証券等に投資します(外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的として野村アセットマネジメントが作成した資料です。